

令和元年度学校保健統計調査結果【速報】

大阪府総務部統計課 勤労・教育グループ

《 詳細は大阪府ホームページに掲載しています。 <http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/hoken/index.html> 》

令和元年12月20日に、令和元年度学校保健統計調査速報（大阪府分）を取りまとめましたので、その概要を紹介します。

なお、この数値は速報値であり、後日（令和2年3月予定）文部科学省から公表される「学校保健統計調査報告書」の数値が確定値となります。

1 発育状態

（1）身長・体重

（ア）全国との比較

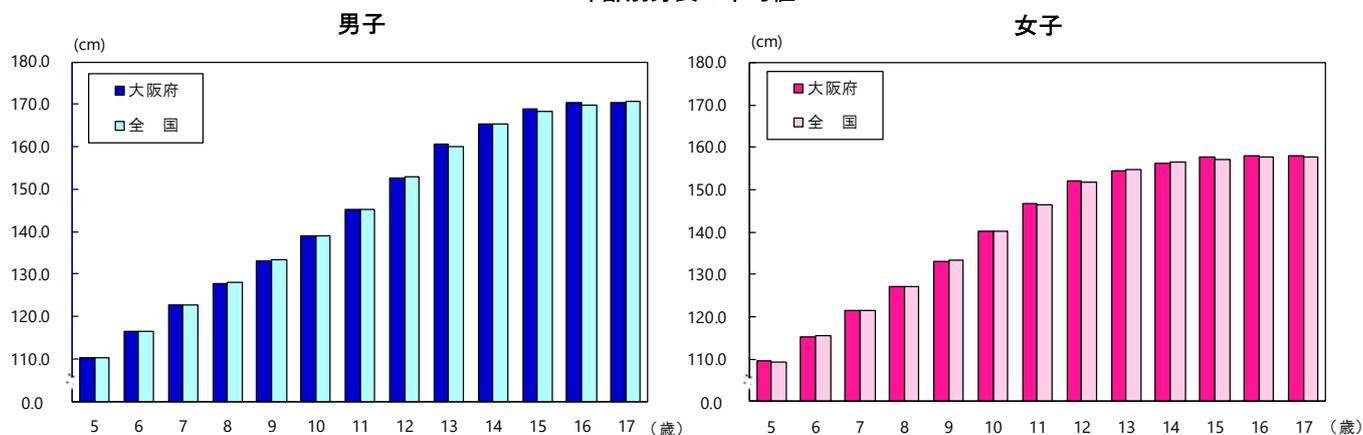
身長は、年齢層によりばらつきはあるが、男子はやや低い傾向があり、女子はやや高い傾向がある

体重は、男女ともに全国平均値よりやや軽い傾向がある

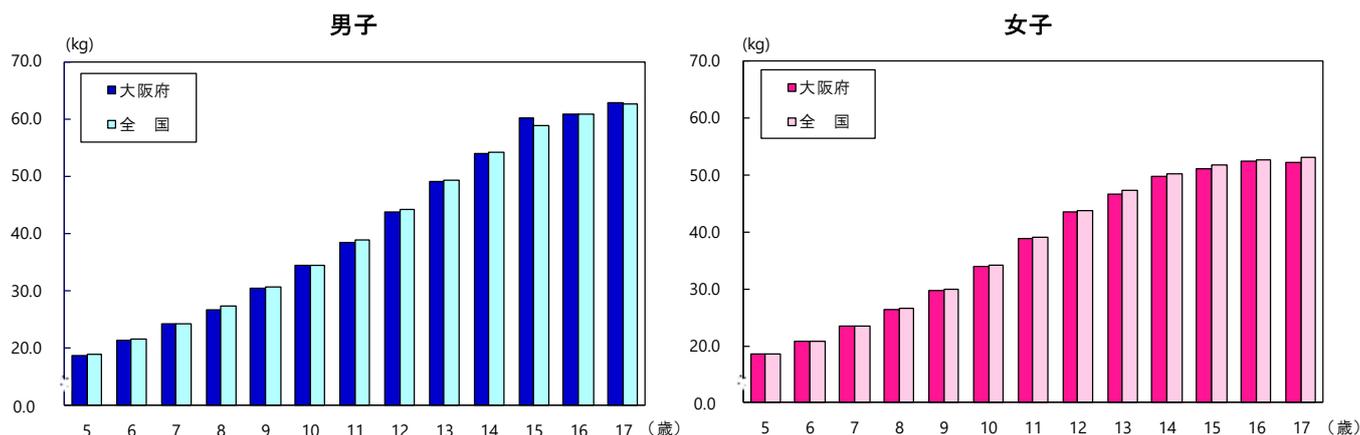
大阪府の幼児、児童及び生徒の身長を年齢別に全国と比較してみると、男子は、13歳、15歳及び16歳以外のすべての年齢で、全国平均値と同じか低くなっています。女子は、全国平均値よりやや高い傾向がありますが、6歳、8歳、9歳、13歳及び14歳では全国平均値より低くなっています。

また、体重では男子は15歳から17歳を除くすべての年齢で全国平均値より下回っており、女子は、すべての年齢で全国平均値と同じか下回っています。

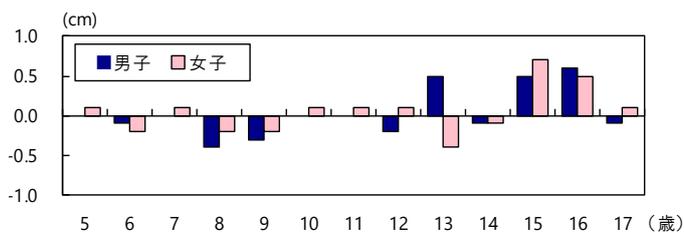
年齢別身長の平均値



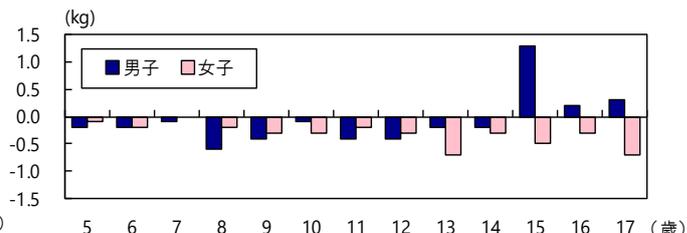
年齢別体重の平均値



全国平均値との差（身長）



全国平均値との差（体重）



大阪府の身長・体重の平均値

		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	身長 (cm)	110.3	116.4	122.6	127.7	133.2	139.0	145.2	152.6	160.5	165.3	168.8	170.5	170.5
	体重 (kg)	18.7	21.2	24.1	26.7	30.3	34.3	38.3	43.8	49.0	53.9	60.1	60.9	62.8
女子	身長 (cm)	109.5	115.4	121.5	127.1	133.2	140.3	146.7	152.0	154.4	156.4	157.9	158.2	158.0
	体重 (kg)	18.5	20.7	23.5	26.3	29.7	33.9	38.8	43.5	46.6	49.8	51.2	52.4	52.3

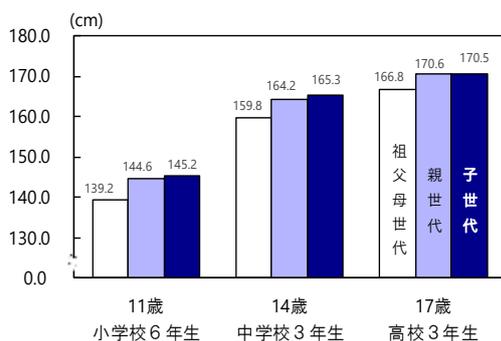
注) 年齢は平成31年4月1日現在の満年齢である。

(イ) 世代間の比較

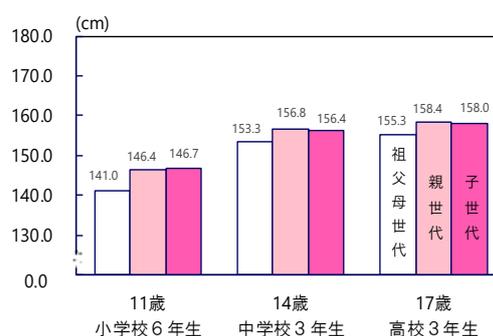
「祖父母世代」に比べて「親世代」が大きく増加している

「祖父母世代（55年前）」、「親世代（30年前）」、「子世代」を比較してみると、全体的には「祖父母世代」から「親世代」は大きく増加しています。「親世代」と「子世代」の増加の幅は「祖父母の世代」から「親の世代」に比べて小さいか、むしろ減少しています。

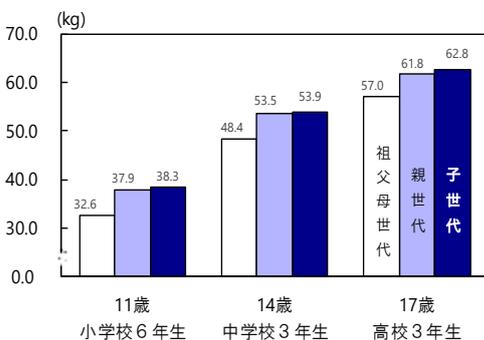
身長の平均値の世代間比較（男子）



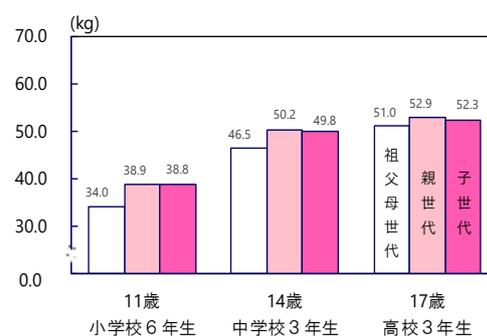
身長の平均値の世代間比較（女子）



体重の平均値の世代間比較（男子）



体重の平均値の世代間比較（女子）



(世代区分表)

世代	年齢	11歳 小学6年生	14歳 中学校3年生	17歳 高校3年生
祖父母世代 (55年前の昭和39年度当時)		昭和27年度生まれ	昭和24年度生まれ	昭和21年度生まれ
親世代 (30年前の平成元年度当時)		昭和52年度生まれ	昭和49年度生まれ	昭和46年度生まれ
子世代 (令和元年度現在)		平成19年度生まれ	平成16年度生まれ	平成13年度生まれ

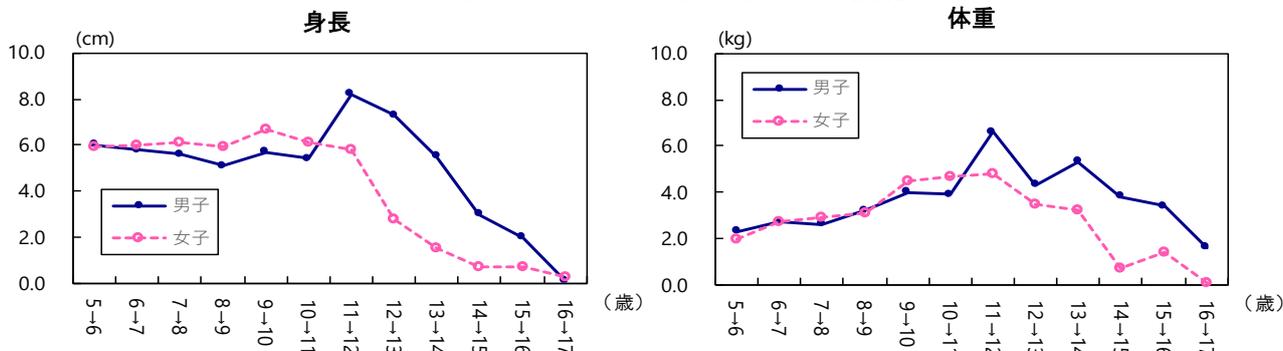
(2) 年間発育量

発育量が著しくなる時期は、女子の方が男子に比べ早い年齢となっている

平成13年度生まれ（17歳）の者の5歳時からの年間発育量をみると、身長は、男子では11歳から12歳にかけて、女子では9歳から10歳にかけて発育量が著しくなっています。

体重では男子では11歳から14歳にかけて発育量が著しくなっており、11歳から12歳にかけて最大の発育量を示しています。女子では9歳から12歳にかけて発育量が著しくなっており、11歳から12歳にかけて最大の発育量を示しています。

平成13年度生まれ（令和元年度17歳）の年間発育量



(3) 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率（※）

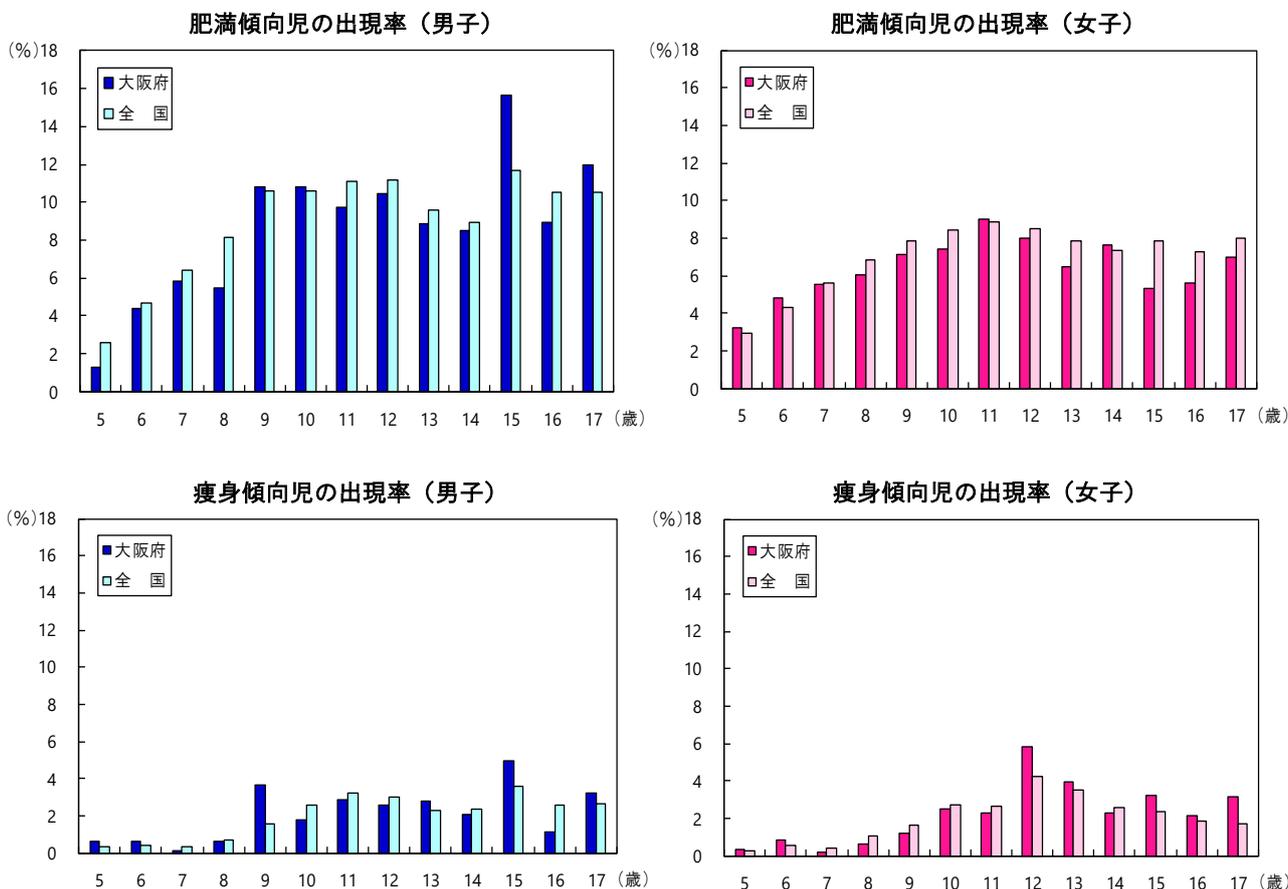
肥満傾向児の出現率は、男女とも多くの年齢で全国平均より低い傾向がある

肥満傾向児の出現率を年齢別に全国と比較してみると、男子は9歳、10歳、15歳及び17歳を除くすべての年齢、女子は5歳、6歳、11歳及び14歳を除くすべての年齢で全国平均値を下回っています。

痩身傾向児の出現率を年齢別に全国と比較してみると、男子は7歳、8歳、10歳から12歳、14歳及び16歳で、女子は7歳から11歳及び14歳で全国平均値を下回っています。

（※）肥満・痩身傾向児の出現率は、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度（過体重度）を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度は、(実測体重 [kg] - 身長別標準体重 [kg]) / 身長別標準体重 [kg] × 100 [%] として求める。



2 健康状態

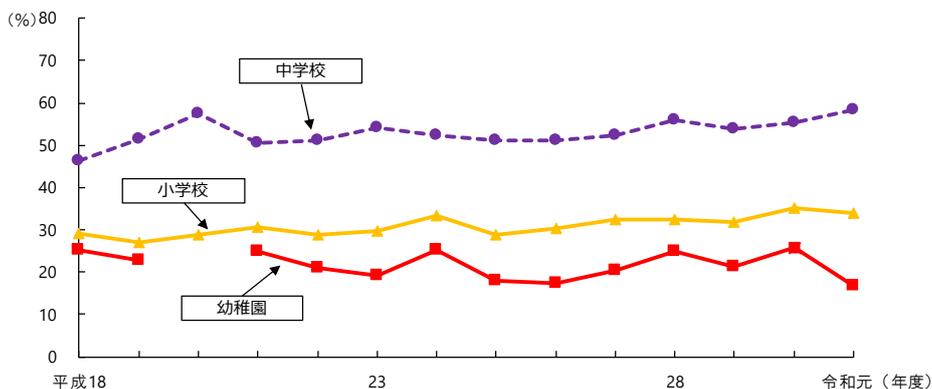
主な疾病・異常等の被患率の状況

(1) 裸眼視力1.0未満の者の割合

幼稚園、小学校で全国平均値を下回り、中学校、高等学校で全国平均値を上回っている

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園16.8%、小学校34.0%、中学校58.5%、高等学校70.6%となっており、幼稚園では平成18年度以降過去最低となっていますが、中学校では過去最高となっています。

裸眼視力1.0未満の者の割合



令和元年度	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
大阪府	16.8	34.0	58.5	70.6
全国値	26.1	34.6	57.5	67.6

*1) 幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

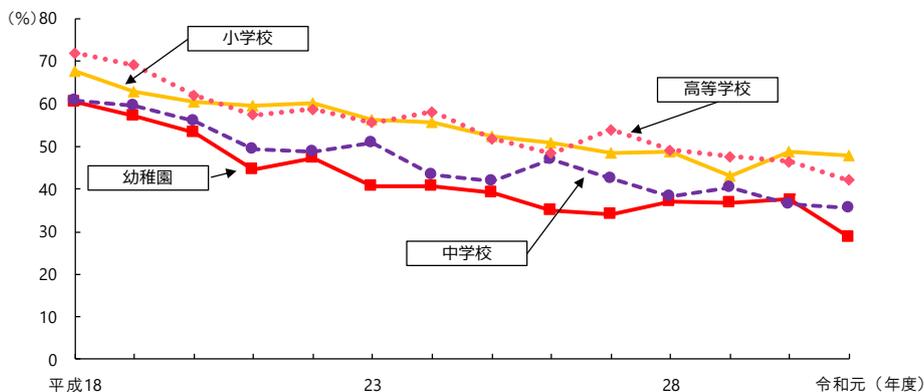
*2) 高等学校は眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をして測定しているため、調査データが無いかデータが少なく秘匿対象となっている年度が複数存在するため、年次推移グラフは掲載していない。

(2) むし歯（う歯）の者の割合

小学校、中学校で全国平均値を上回っている

むし歯（う歯）の者の割合は、幼稚園28.6%、小学校47.9%、中学校35.7%、高等学校42.1%となっており、幼稚園、中学校及び高等学校では平成18年度以降過去最低となっています。

むし歯（う歯）の者の割合



令和元年度	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
大阪府	28.6	47.9	35.7	42.1
全国値	31.2	44.8	34.0	43.7